

## コラム 「主権者としての意識の涵養<sup>かん</sup>に向けて取り組むクラブ活動」(小学校)

### ○ クラブ活動における「主権者教育の充実」

学校としてクラブ活動を、年間を通して計画的、継続的に実施するとともに、教師が以下の点を踏まえて指導することで、児童にとって活動する楽しさや充実感も高まるほか、主権者として求められる力を培うことにつながります。

- ・「学年や学級の枠を超えて集う同好の仲間と興味、関心を追求する集団活動」という、クラブ活動の特質を踏まえ、学級や学年の枠を超えた活動グループを編成し、様々な仲間と関わるができるようにする。
- ・学習指導要領に示されているクラブ活動の3つの内容（「(1) クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営」、「(2) クラブを楽しむ活動」、「(3) クラブの成果の発表」）を確実に実践する。
- ・実践活動はもちろん、活動計画を作成する話し合いにも、学年を問わず協働して取り組むようにすることで、「自分もこのクラブの一員であり、自分たちでクラブの活動をよりよいものにする」という参画意識を高める。

### ○ クラブ活動の三つの内容の指導のポイント

#### (1) 「クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営」

「児童が活動計画を立て、役割を分担し、協力して運営に当たること」

チェックしてみましょう！

指導の視点例

- 年間や学期ごとなどに、児童が話し合っ活動計画を立てるようにしている。
- 話し合い活動を行う際に、一部の児童ではなく異学年の児童で話し合っクラブとしての意見をまとめている。
- 異年齢で活動グループを編成し、協力して参加できるようにしている。

#### (2) 「クラブを楽しむ活動」

- 個々の興味・関心の追求にならず、思いを出し合っうえで、共通の興味・関心を追求する活動になるように話し合っ決めていく。
- 互いのよさや頑張りを認め合い、伝え合うなどの振り返りを行い、様々な学級や学年を超えて友達と関わるよさが実感できるようにする。
- 準備や片付けを全員で協力して行い、役割を果たすことで、クラブの一員としての意識が高まるようにする。

#### (3) 「クラブの成果の発表」の場の工夫

- 異学年の児童が一堂に会するクラブ発表会
  - 4, 5, 6年生と、次年度クラブに所属する3年生が集い、実物の映写、実演など、クラブごとに発表を行って、互いの成果や頑張りに気付くようにするとともに、次年度のクラブのオリエンテーションとなるようにします。
- 作品を鑑賞できる展示発表会
  - 絵画や工作、手芸など、近くで見るとよさがより伝わるような制作物に取り組むクラブにおいては、展示発表会が考えられます。1週間程度の展示期間を設け、より多くの児童が目にすることができるようになります。
- ICT 端末等を活用したクラブ発表会
  - ・ICT 端末や校内放送を活用して成果の発表を行うことができます。各クラブで発表する内容について話し合い、一定の時間に収まるように撮影、編集します。
  - ・児童は個々に自分の ICT 端末で視聴したり、学級単位で教室の大型テレビモニターで視聴したりします。校内放送を活用して映像を放映することも考えられます。

## 【クラブ活動における「主権者教育の充実」に向けた指導のポイント その1】

### 話し合い活動を大切に

集合したらクラブ長のあいさつや教師からの指示で何となく始まり、時間になったら号令をかけて終わり。準備や片付けは教師がその都度、声をかけている…。このような様子は見られませんか？

「クラブを楽しむ活動」とは、各自が思い思いに楽しめるようなことをしていればよい、というものではありません。協力、共通の興味・関心の追求などを具現化した活動にするためには、クラブ活動においても、話し合い活動が欠かせません。

クラブ活動で行う話し合い活動には、例えば、次のようなものがあります。

- ・年間や学期ごとの活動計画を立てたり、振り返りをしたりする話し合い（全体）
- ・1単位時間の活動内容を確認したり振り返りをしたりする話し合い（全体）
- ・それぞれの思いやグループとしての活動について共有する話し合い（活動グループ）

状況に合わせた話し合い活動を、適宜、取り入れましょう。

クラブ活動で行う話し合い活動の基盤は、学級活動における学級会です。1年生から話し合い活動を積み重ねていくことで、学級への参画意識が高まり、クラブ活動においても、自分たちの活動を話し合つてよりよいものにしようとするなど、クラブ活動の充実に向けて主体的に参画しようとする態度を育成することにつながります。

右の写真は、ある学校のドッジボール・ハンドボールクラブの活動の様子です。

2学期のある時、雨で運動場が使えず、運動することができなくなりました。そんな中、児童から「チームで作戦会議をしたい。」という声上がり、グループごとに互いの動き方などを確認したり、作戦を立てたりする話し合いを行うことになりました。低学年・中学年の児童に「あなたは思う？」と聞くなど、いろいろな仲間の思いを大切に話し合いを進めている高学年の姿が見られ、どのグループも学年や学級の枠を越えて和気あいあいと活動していました。

このように、話し合い活動を適切に位置付けて協働したり、自分もこのクラブの一員だという意識を高めることができるようにしたりすることが重要です。



## 【クラブ活動における「主権者教育の充実」に向けた指導のポイント その2】

### クラブ活動コーナーの設置

クラブ活動コーナーを設置し、クラブの活動内容を紹介するコーナーを設けることで、相互理解を促進します。

活動内容の紹介や次の活動のお知らせなど、その都度更新して、他のクラブの活動の工夫やよさに気付いたり、自分たちの活動の参考にしたりすることで、参画意識が高まります。

